

J.LEAGUE NEWS

Vol. **175**
30 Sep. 2010



編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

©JLEAGUE PHOTOS



決勝を目指して熱い戦いが続く2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ。写真はG大阪vs広島の準々決勝第2戦

ヤマザキナビスコカップ4強決定

決勝トーナメントがスタート。川崎F、磐田、広島、清水が接戦を制して準決勝に進出

2010 Jリーグヤマザキナビスコカップの決勝トーナメントがスタートした。9月1、8日にはホーム&アウェイによる準々決勝が開催。第1戦の3試合が1点差の決着、1試合が引き分けという結果を受けて、第2戦も激しい戦いとなり、川崎フロンターレ、ジュビロ磐田、サンフレッチェ広島、清水エスパルスの4チームが準決勝に進出を果たした。準決勝のカードは川崎Fvs磐田、広島vs清水に決定。やはりホーム&アウェイにより、第1戦が9月29日(水)、第2戦が10月10日(日)に開催。準決勝の勝者による決勝は11月3日(水・祝)、国立競技場で行われる。「聖地」のピッチに立つ栄誉を目指して、さらに白熱した戦いが予想される。

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS

Calbee

Canon

KONAMI

AiDEM

マイラン製薬

leopalace 21

plenus

Coca-Cola

J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER

朝日新聞

LEAGUE CUP SPONSOR

ヤマザキナビスコ

SUPER CUP SPONSOR

FUJI XEROX

EQUIPMENT SUPPLIER

molten
For the real game

J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER

Johnson-Johnson

J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER

スカパー!

Jリーグ ヤマザキナビスコカップ

2回目の優勝を狙う静岡県勢。 初制覇を目指す川崎F、広島

予選リーグを勝ち抜いた4チームにAFCチャンピオンズリーグに出場した4チームを加え、合計8チームによって争われた2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝トーナメントの準々決勝は、いずれも接戦となった。

昨年の準優勝チームである川崎フロンターレは、鹿島アントラーズとの第1戦に1-2と敗れたが、ホームに戻っての第2戦を3-1と勝って対戦成績を1勝1敗とし、2試合合計4-3のスコアで準決勝進出が決定。この両チームは昨年の準々決勝でも顔を合わせており、やはり川崎Fが勝っている。

1998年以来、12年ぶり2回目の優勝を目

指すジュビロ磐田は、ホームの第1戦でベガルタ仙台に2-1と先勝。アウェイの第2戦を0-0の引き分けに持ち込み、1勝1分で7年ぶりの4強入り。

サンフレッチェ広島は、クラブ史上初のヤマザキナビスコカップ準決勝進出を成し遂げた。ホームの第1戦に0-1と敗れて厳しい状況となったが、第2戦で奮起し2-1の勝利。対戦成績は1勝1敗、2試合合計スコアも2-2と並んだが、アウェイで挙げた得点数で上回り、準決勝へ勝ち進んだ。

昨年に続く2連覇を目指したFC東京は、96年

敗れた。F東京のホームで行われた第1戦は1-1の引き分け。第2戦も0-0の引き分けに終わり、対戦成績が2分、2試合合計スコアも1-1となったが、やはりアウェイゴールの規定で清水が勝利、3年連続の準決勝進出を果たした。

大会開幕時に23歳以下の選手が対象となるニューヒーロー賞は、8月30日に予選リーグ終了時点における投票の途中経過が発表された。この時点での1位は、京都サンガF.C.の18歳のFW宮吉拓実。報道関係者による投票は準決勝まで実施され、その結果を基に選考委員会にてニューヒーロー賞の受賞者が選出される。



アウェイで仙台に得点を許さなかった磐田のGK川口

決勝トーナメント



※組み合わせの上のチームをホームチーム扱いとする。(組み合わせの下
のチーム：第1戦ホームチーム/同上のチーム：第2戦ホームチーム)
※広島vs清水については、会場の都合により第1戦と第2戦を入れ替えて実施します。



川崎Fは中村(右)らの得点で、昨年に続き鹿島を下した



F東京との接戦を制し、3年連続4強入りの清水。右は小野

2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ予選リーグ終了時点での「ニューヒーロー賞」投票途中経過

順位	選手名	所属クラブ	グループ	順位	選手名	所属クラブ	グループ
1	宮吉 拓実	京都サンガF.C.	A	7	山田 拓巳	モンテディオ山形	B
2	※富田 晋伍	ベガルタ仙台	A	8	※キム ヨングン	FC東京	A
3	柏木 陽介	浦和レッズ	B	8	※バク チュホ	ジュビロ磐田	B
4	※重松 健太郎	FC東京	A	10	高橋 峻希	浦和レッズ	B
5	※武田 洋平	清水エスパルス	B	10	金久保 順	大宮アルディージャ	A
6	※平岡 康裕	清水エスパルス	B	10	※岩下 敬輔	清水エスパルス	B

*鹿島、川崎F、G大阪、広島はAFCチャンピオンズリーグ出場のため、決勝トーナメントからの出場
※=決勝トーナメント進出クラブ所属の選手



予選リーグで1得点を決めた宮吉



決勝トーナメントで ヤマザキナビスコカップ版 Twitterページをオープン

Jリーグは9月1日にスタートした2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝トーナメントのプロモーションの一環として、ヤマザキナビスコカップ版Twitterページをオープンした。「聖地」国立競技場で開催される決勝に向けて、ソーシャルメディアでも大会を楽しめる機会を、同ページを通してファン・サポーターに提供。ヤマザキナビスコカップ獲得に向けた強い気持込みや、クラブを応援する熱い気持ちなど、同ページ内で随時、テーマを出題し、各クラブへの応援メッセージなどを募集する。

詳しくはJリーグ公式HP内の該当コーナー (<http://2010ync.j-league.or.jp/>)を参照。

U-14・U-15 Jリーグ選抜 海外キャンプを実施

U-13 Jリーグ選抜チームの韓国での海外キャンプ(8月1～6日、前号既報)に続き、U-14 Jリーグ選抜チームがオランダ、U-15 Jリーグ選抜チームがブラジルでキャンプを実施した。国際試合でレベルアップを図ただけでなく、現地の人々との交流など貴重な経験を積んだ。なお、実施に際しては、ミズノ株式会社よりユニフォーム、移動着などの提供をいただいた。

U-14 Jリーグ選抜 オランダキャンプ



昨年に続く大会への参加で準優勝という好成績を取めた

8月23～31日にオランダキャンプを実施したU-14 Jリーグ選抜チームは昨年と同じく、同国南部のティルブルグで開催された第17回国際ユース大会Audax-Willem IIに参加した。4チームによる1回戦総当たりの予選リーグでは、Dグループを首位で通過した。第1戦は地元のヴィレムII/RKCと0-0の引き分けに終わったが、第2戦はハンブルガーSV(ドイツ)に1-0の勝利。第3戦ではチェルシー(イングランド)に3-0と快勝し、2勝1分の成績で1位となった。

準決勝ではアーセナル(イングランド)と対戦し、2-2で同点の後、PK戦を5-4で制して決勝に進出。優勝の懸かる試合では再びハンブルガーSVと顔を合わせた。キックオフ直後に許した先制点でペースを握られ、前半終了間際にも失点。後半の反撃も実らず、0-2の敗戦となった。しかし、昨年の3位を上回る準優勝の成績を収め、MVPに中野雅臣選手(東京ヴェルディ)が選ばれるなど、選手たちは能力の高さを示した。



準決勝のアーセナル戦。PK戦の末に決勝進出を果たした



トレーニングを行う選手たち

U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ

8月24日～9月2日に行われたU-15 Jリーグ選抜チームのブラジルキャンプでは、恒例となった第13回日伯友好カップに出場した。4チームによる1回戦総当たりの予選リーグでは、いずれもブラジルのチームと対戦。アトレチコ・ミネイロとの初戦は相手のフィジカルとスピードの前に、0-4と敗れた。第2戦のポアビスタ戦は体を張った激しいプレーを披露し、2-0の勝利。望月一仁監督も「球際や1対1で負けない気持ちを出すことができた」と、試合を振り返った。な

お、日伯友好カップは2005年からの参加で、07年以来となる通算2勝目だった。第3戦はバスコ・ダ・ガマに1-5と敗れたが、この試合でも戦う姿勢を前面に出した。

ミーティングでは、ポジション別のグループでできたこと、できなかったこと、他のグループに求めることなどをあらかじめ話し合い、それぞれの代表者が発表するなど、自主性を重視。予選リーグ突破こそならなかったが、各選手が課題を見いだすきっかけとなった。



ジーコ氏も選手たちを激励に訪れ、記念品を贈呈した



日伯友好カップでは3年ぶりの勝利を挙げるなど健闘を見せた



戦う気持ちを前面に出したバスコ・ダ・ガマとの試合

育成

「Jユースカップ2010 第18回 Jリーグユース選手権大会」が始まる

ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「Jユースカップ2010 第18回 Jリーグユース選手権大会」の予選リーグが、8月22日に始まった。同28日には、昨年の大会の優勝チームであるFC東京U-18も、川崎フロンターレU-18と初戦を行った。

予選リーグはJ1、J2の34クラブ(カターレ富山、ファジアーノ岡山、ギラヴァンツ北九州は不参加)を8グループに分け、ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦を実施。

各グループの上位2チーム(合計16チーム)に、日本クラブユースサッカー連盟代表の4チームを加えた合計20チームが決勝トーナメントに出場する。決勝は12月26日(日)に大阪長居スタジアムで開催が予定されている。

Jリーグの各クラブは発足当時から、日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟、地域のサッカークラブ、部活動などと緊密に連携し、地域における選手育成や普及に力を注いできた。18回目の開催となる本大会も、数多くの優



F東京と川崎Fはトップチームが「多摩川クラシコ」でライバル意識を燃やす悶戦。若い選手たちの競り合いも激しい

秀なJリーグ選手が輩出し、年を追うごとに価値、注目度を高めている。勝利という結果を追求し、長距離の遠征などもあるホーム&アウェイ方式など貴重な経験を通じて成長する若い選手たちの姿に、大いに注目してほしい。



異例の暑さが続く中、選手たちは元気に、はつらつとしたプレーを見せた



相手チームの選手にも審判団にもリスペクトを忘れず

芝生

磐田市立富士見小学校の芝生開きに協力

Jリーグは、8月31日に静岡県磐田市立富士見小学校で行われた芝生開きに協力した。同小の617名の児童および教職員、地域の関係者のほか、Jリーグ百年構想メッセンジャーの城彰二氏、Mr.ピッチも参加。サッカー教室ではジュビロ磐田のコーチ、ラグビー教室ではヤマハ発動機ジュビロの選手、コーチが指導を行った。

第1部の式典では同小の加藤昌洋校長が「芝生は生きています。石があったら拾いませ

う、雑草があったら取りましょう、芝生を傷めたら砂を置きましょう」と、参加者に三つのお願いをした。また、児童を代表して高田直哉くん(11歳)が「富士見小学校の魔法のじゅうたんは、最高に気持ちがいいです。次に使う人のことを考えて、きれいな芝生を守っていきます」とあいさつした。

第2部のふれあいスポーツ教室は、低、中、高学年の3グループに分かれ、サッカー教室、休憩、ラグビー教室とローテーションで実施され

た。サッカー教室はGボールを使った運動やサッカーボールを使ったゲームなどで楽しみ、ラグビー教室ではパスのリレーや選手との綱引きを行った。綱引きではMr.ピッチも飛び入り参加で大いに盛り上げた。

富士見小は2009年9月に校庭の半面を、今年8月に全面を芝生化した。磐田市内の小学校は18校が芝生の校庭を有するが、全面を芝生化したのは同小が初めてとなる。



鮮やかな緑のじゅうたんが敷き詰められた富士見小の校庭



Jリーグ百年構想メッセンジャーの城氏も子どもたちを指導



Mr.ピッチも綱引きに飛び入り参加

Jリーグヤマザキナビスコカップ通算1,000試合達成記念

2010 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ 「マッチングカード」プレゼント

～2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ 準決勝・決勝来場者にプレゼント～

1992年に開幕したJリーグヤマザキナビスコカップは、10月10日(日)の2010 Jリーグヤマザキナビスコカップ準決勝第2戦で通算1,000試合を達成する。これを記念して、準決勝各試合会場にて「Jリーグヤマザキナビスコカップ1,000試合記念カード」のプレゼントを実施する。

また、11月3日(水・祝)に国立競技場にて開催され

る同決勝では、来場者全員に、表・裏それぞれに決勝進出クラブの選手一人ずつがデザインされた「2010 JリーグヤマザキナビスコカップFINALカード」をプレゼント。これらの準決勝、決勝で配布される両カードを組み合わせると、カードの中央にデザインされたJリーグヤマザキナビスコカップが完成するという仕組みになっている。



2010 JリーグヤマザキナビスコカップFINALカード

「FINALカード」は表と裏のそれぞれに決勝進出クラブの選手が一人ずつ



「1,000試合記念カード」は準決勝進出クラブの選手たちをデザインした

※各カードのデザインは変更となる場合があります。

キャリア キャリアデザイン支援プログラムを実施

Jリーグは、Jリーグの人材育成活動における選手教育の新たな取り組みとして、文部科学省の競技者・指導者等のスポーツキャリア形成支援事業を業務受託し、「キャリアデザイン支援プログラム」を実施する。

このプログラムは、プロの競技者を目指す人材にとって適切な「キャリア」についての考え方や心構え、社会人として適切な就労観や職業観の醸成を目的に実施するもので、将来、地域で活躍、貢献できる人材の育成を目指す。

9月11日を皮切りに12月12日(日)までの期間、Jクラブ アカデミーの4クラブ(ベガルタ仙台、横浜 F・マリノス、ガンバ大阪、アビスパ福岡)の中学生(ジュニアユース)各20名程度を対象として実施する。

プログラムはJリーグをテーマに、全5回(45分×4、90分×1)の授業を実施。ビジネスの仕組み、産業構造、産業にかかわるさまざまな職業、職業に必要な能力という視点から構成され、子どもたちを積極的に学びに参画させること

によって、学びへの意義や関心を促す。

今後は、Jリーグ アカデミーのジュニアユースにとどまらず、小学生年代、高校生年代、新人プロ選手といった対象年代ごとのプログラムおよび一貫した育成システムの構築を目指す。また、Jクラブが主体となり、クラブごとにアレンジされた同プログラムをJリーグ、Jクラブ、ホームタウンの3者が連携し地域の教育機関や団体で実施することで、地域で活躍、貢献できる人材の育成に取り組んでいく。

大会 第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会がスタート

恒例となった元日の決勝を目指し、第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会がスタートした。今年度の大会には5,823チームが参加。9月3日に1回戦が行われ、Jクラブは昨年度と同様、5日の2回戦から登場した。

大会史上初となる3連覇を目指すガンバ大阪は、FWチョ ジェジンの2得点などで大阪体育大学に6-2と大勝して好スタートを切った。同じ準優勝の名古屋グランパスもFW玉田圭司のゴールなどで中京大学に3-0の勝利。今シ

ーズンのJ1リーグ戦で上位の鹿島アントラーズ、川崎フロンターレ、清水エスパルス、セレッソ大阪なども、順当に3回戦へ進出した。また、J2で上位を争う柏レイソル、ヴァンフォーレ甲府、アビスパ福岡なども、3回戦に駒を進めた。

10月9日(土)、11日(月・祝)、13日(水)に開催される3回戦を戦う32チームの内訳は、J1が17、J2が13、JFLが2。G大阪が偉業を達成するのか、ライバルがそれを阻止するのか。負ければ後がないカップ戦の展開も注目される。



前人未達の3連覇を目指すG大阪は2回戦で大勝

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

3

FC東京



Jクラブという貴重な資源の活用法と市役所の部署を結ぶ情報交換会



クラブと共にさまざまな取り組みを行う調布市



人気キャラクターとのコラボレーションも



徳永孝正氏

「常にFC東京を意識しながら仕事をしています」と語るのは、産業振興課の徳永孝正氏。商工会、商店会など産業振興には必ずFC東京をツールとして紹介している。「FC東京が街に入ってきてくれる。何かを企画するときは、市役所とクラブが同じ方向を向いている。クラブと一緒にやっていける、という思いになります」と語る同氏は、市役所

の内部にも協力を得るために奔走している。「調布にグラウンドがなかったころ、西が丘(サッカー場)や江戸川(区陸上競技場)へ応援に行くため、市役所でサポーターを募り、バスツアーを企画しました」と楽しそうに振り返る。

「プロの競技団体のホームスタジアムを持つ市が全国にいくつあるのか。サッカーのJ1クラブに限ったら、たった17しかない。それだけ貴重な資源を持っているのに、なぜ有効活用しないのか」と市役所内で訴え続けたのは保険年金課の渡辺直樹氏。FC東京との直接的な業務担当ではない同氏だが、クラブと調布市を結ぶ架け橋となった功労者の一人である。市役所でもFC東京への理解が十分でなかった10年前、クラブスタッフの提案から同氏は市と姉妹都市の関係にある



渡辺直樹氏

木島平村(長野県)でJリーグU-12フェスティバル(FC東京が主管クラブ)の前身となる事業の開催をサポート。その後、05年にJリーグアカデミーのモデル事業としてスタートし、06年からJリーグの正式な事業となった。

早く取材に応じていただいた3氏は「自分たちにも限界はあったが、恵まれていることに、市長(長友貴樹調布市長)が『わが街・調布のFC東京』と声を掛けてくれています。市役所全体の力を結集すれば、さらに大きなことができと思っています」と口をそろえる。

川崎市の職員が調布市役所を訪れた。「調布市も頑張っていますね。川崎市も頑張りますよ。今度『行政の多摩川クラシコ』を開きましょう!」——Jリーグの理念が確実に浸透している。

(共同通信社 小泉 泰紀)

中途半端でない取り組み

「調布市はFC東京を応援しています」——調布駅に停車するため速度を落とした京王線の車窓から、調布市役所庁舎の壁面に張られた大きな横断幕が目飛び込んでくる。1999年、調布市はFC東京に出資、2001年に東京スタジアム(現 味の素スタジアム)が市内に完成し、Jクラブのホームスタジアムを持つ自治体となった。調布市にとって、FC東京はどのような存在なのか。行政の中心である市役所を訪ねた。

調布駅南口から市役所に向かう途中、ゲゲゲの鬼太郎がサッカーボールを追いかけ、「鬼太郎も応援しています ガンバレFC東京!」と書かれたラッピングバスが通り過ぎる。作者の水木しげる氏は調布市の名誉市民。目線を上げれば、鬼太郎とクラブマスコットの東京ドロンパが描かれた街路灯バナーフラッグがはためく。「すごいな」と見とれながら市役所に到着すると、庁舎の正面玄関横の壁面には車窓で見た横断幕と同じ文言の懸垂幕が市民を迎えている。

「『市役所でFC東京のチケットが買えますか』『FC東京のサッカースクールに入るには』という問い合わせもあります」と話すのは、スポーツ振興課の谷崎智仁氏。クラブは、市内各所で



谷崎智仁氏

サッカー教室を開くほか、現役選手の小学校訪問も行う。一方、調布市は

Jリーグのシーズン開幕時やヤマザキナビスコカップに合わせて庁舎内でFC東京写真展を開催。市民へのスポーツ普及を目的としている同課と、積極的なホームタウン活動を

心がけるFC東京は、お互いを利用することで関係を深めている。

それにしても、調布市の取り組みは中途半端ではない。クラブと協力し、市への転入者をFC東京ホームゲームへ招待する。市の公式ホームページには試合の概要や順位などチーム情報が掲載され、広報誌の元旦号の表紙写真にはFC東京の選手を採用するのが恒例だ。一反木綿(いったんもめん。ゲゲゲの鬼太郎のキャラクター)がデザインされた職員IDカード用ストラップは、クラブカラーを意識。そのほか、市の施設で京王線飛田給駅前にある駐輪場の換気塔をFC東京のクラブカラーにペイントしたり、FC東京がヤマザキナビスコカップで優勝するとトロフィーを庁舎に展示するなど、紹介したらきりが無い。

これだけの取り組みをスポーツ振興課が単独で行うことは難しいのでは、との問いに、谷崎氏は「情報交換会のおかげです」と教えてくれた。FC東京に関連する部署とFC東京担当者が集まり、2カ月に1度のペースで「情報交換会」を開いているようだ。少しでもクラブに関係すると感じたら、会に参加してもらい、「自分たちも一員である」という意識付けをしている。現在では20もの部署が情報交換会に集まる。これまで、クラブスタッフが市役所を熱心に訪問し、クラブと市が二人三脚でやってきたからこそ、今の姿がある。

市役所全体の力を結集すれば

NHKの連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の舞台でもある調布市は10年5月、調布駅北口に観光案内所を開設。オープンから3カ月間で、3万4000人も観光客が案内所を訪れた。今後、市ではこの案内所を活用し、FC東京も大きく紹介していく予定だ。

Jリーグニュースでは146号(2008年3月28日発行)から165号(09年10月30日発行)にかけて「スポーツでつくる幸せな国『Jリーグ百年構想』へのアプローチ」と題し、Jクラブによる地域に根差すためのさまざまな取り組みを連載した。では、こうしたJクラブの存在、活動に刺激を受けたり、触れるなどして、地域とそこに暮らす人々とはどのように変わったのか。新たなシリーズでは、Jクラブと手を携えながら共に歩む人々や、その活動を紹介。第2回となる今回は、FC東京、横浜FCにスポットを当てた。

訂正：Jリーグニュース174号の8ページ、大宮アルディージャに関する記事の8行目に「大宮市西区」とありますが、正しくは「さいたま市西区」です。



4

横浜FC



交流半年で期待感が高まる。 クラブが不可欠な存在となる予感

心をつかんだ初めてのイベント

2010シーズンが始まって間もない3月17日、横浜FCの選手と監督がクラブにゆかりのある横浜市内の商店街を訪問した。これは横浜FCホームタウンプロジェクトの一環で、シーズンを通して横浜FCを応援してもらえるように地域住民との交流を図るもの。訪問したのは保土ヶ谷区の洪福寺松原商店街、旭区の希望ヶ丘商店会、神奈川区の六角橋商店街、戸塚区の戸塚東口商店会の4カ所だ。

チームの練習場が移転した保土ヶ谷区にあり、横浜FCのホームスタジアムであるニッパツ三ツ沢球技場に近い洪福寺松原商店街には、岸野靖之監督と三浦知良選手をはじめとする選手ら11名が訪問。商店街を歩きながら横浜FCのポスターを配布して各商店に掲出をお願いしたり、サイン会を行って地元住民との交流を深めた。

洪福寺松原商店街は、昭和の雰囲気を残した活気ある商店街として有名で、遠方から観光バスツアーで買い物客が訪れることもある。

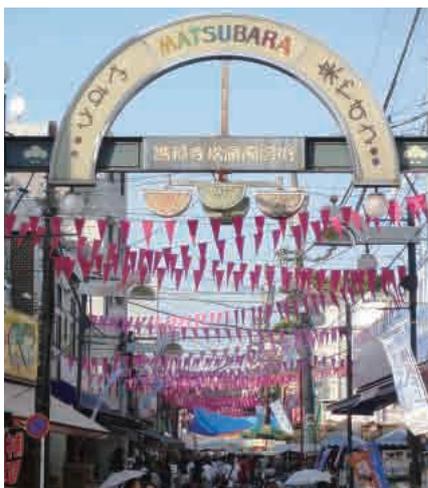
これまでテレビ撮影などメディアの取材はよくあるものの、今回のような訪問の対応を行ったのは初めてのことであった。有名選手が参加したこともあって、大勢の人が押し寄せたため、商店街給出で対応に当たったという。ファン・サポーターの波から選手をガードした感想を「本当にすごい人だったんです」と話すのは洪福寺松原商店街販促部の市子嶋桂子部長。三浦(知)選手が立ち寄りおはぎを購入した和菓子屋には、その後「カズさんが買ったのと同じ物をください」と来店するファンもいたという。



市子嶋桂子氏

昨年より洪福寺松原商店街は、地元の横浜国立大学の学生と提携し、商店街をより魅力あるものとするプロジェクトに取り組んでいる。古い物を残しつつ、学生のアイデアを取り入れるなど、新しい物も取り入れる柔軟さを持ち合わせたこの商店街にとって、横浜FCを歓迎するのは容易なことだった。

商店街でも、このイベントに反対した人は誰一人いなかったという。現在も商店街のいたるところに横浜FCを応援するのぼり旗がはためいてお



活気ある洪福寺松原商店街

り、また各商店にはホームゲームスケジュールを知らせるポスターが掲示されている。実際に選手が商店街を訪問し交流したことがきっかけで、それまでJリーグに興味がなかった商店街の人たちの心をつかむことができたようだ。実は市子嶋部長も、このイベントをきっかけに初めてJリーグの試合を観戦した。間近でプレーする選手やファン・サポーターの熱い声援に、スタジアムでなければ味わえない臨場感や面白さを感じたそう。

知恵、ノウハウを共有して

ただ、商店街もクラブも現状には満足しておらず、お互いにさらに密接な関係を築いていきたいと考えている。「せっかく親しくなったのだから、もっと何かできたらいいと思っている」と市子嶋部長は期待を寄せる。もっと数多くののぼ



商店街にはためくのぼり旗。旗のイラストはフリ丸

り旗を掲げ、クラブマスコットであるフリ丸の人形を飾り、商店街のイベントにもフリ丸にどんどん参加してもらいたいと考えている。

逆に商店街が、クラブの実施するイベントに参加するような試みも可能だろう。また、そこに横浜国立大学が加わることで3者の交流が生まれるかもしれない。商店街

もクラブもスタッフの人数が十分ではない中で、知恵を出し合いお互いのノウハウを共有していくことができれば、さらに良い関係を築くことができるだろう。

横浜FCの今シーズンのスローガンは「昇格～ふたたび一緒にあの舞台へ～」。そこには横浜FCにかかわるすべての人の力を結集して4年ぶりにJ1リーグに昇格するという強い思いが込められている。「商店街や地域の皆さんで応援して、J1に昇格してくれたらうれしい」と言う市子嶋部長。Jリーグの試合開催日にも商店は営業を行っているため、スタジアムへ足を運ぶのは容易ではないが、「試合の結果が気になるようになってきた」との言葉にもあるように、商店街＝ファン・サポーターの土台はできている。交流が始まってまだ半年余りだが、商店街にとって横浜FCが必要不可欠な存在になる日は遠くないと感じた。

(共同通信社 谷口 直子)



ホームゲームを告知するポスターは数多くの商店に掲出されている

©J.LEAGUE PHOTOS



[PROFILE] ヨーコ ゼッターランド

出生地はアメリカのサンフランシスコ。6歳から日本で育ち、バレーボールで活躍。早稲田大学では、関東大学リーグ6部から2部優勝にまで導いた。その後、単身渡米してアメリカ代表チームのトライアウトに合格。同代表としてバルセロナ(1992)、アトランタ(1996)のオリンピックに出場し、バルセロナでは銅メダルを獲得した。その後は、日本のVリーグでも活躍。現在はスポーツキャスターとして各種メディアへの出演のほか、スポーツの分野で指導、講演、執筆など幅広く活動。各種競技団体などの役員も務めている。

撮影場所：東京ミッドタウン

今年7月、新たにJリーグ理事に就任したヨーコ ゼッターランド氏。バレーボールの第一線から退いた後、国内外のスポーツ界で蓄積した経験を生かして各方面で活躍中の同氏に、その抱負などを聞いた。

現場に近い視点で

——今回、Jリーグ理事就任を決めた経緯を教えてください。

ゼッターランド 2001年からスカパー!の「Jリーグナイト!」という番組で、中西哲生さんとダブルMCを務めました。番組には当時の川淵(三郎)チェアマン(現 日本サッカー協会名誉会長)や佐々木(一樹)事務局長(現 Jリーグ常務理事)に出演いただくなど、Jリーグ事務局とはご縁がありました。その後、少し時間は空きましたが、昨年はブランドアップセミナーの講師を務めさせていただきました。今回のお話をいただき、「わたしでもできることがあるのなら」と決断しました。

——日本バレーボール協会、日本バスケットボールリーグの理事も務めていますね。

ゼッターランド 選手経験者が運営サイドから競技を見ることは勉強になります。それぞれの競技団体は特色、歴史的背景も異なり、いい経験を積ませてもらっています。積極的に情報を

「人間力を忘れず新しいことへ取り組みたい」

インプットしていきたいと思っています。

——Jリーグ理事会のメンバーでは紅一点ですが、どのようなことが期待されていると思いますか。

ゼッターランド 女性としての視点というものもあるかもしれませんが、ほかの競技団体からの視点、選手経験者、一人のファン・サポーターが組織とどうかかわるかという見方もあると思います。どちらかというと、現場に近い立場で意見を述べていければと考えています。

——理事に就任してからまだ約2カ月ですが、Jリーグの印象はいかがですか。

ゼッターランド いつも

思うのは、皆さんがサッカー界、Jリーグを良くしていくには「どんなことをしたらいいか」「何を取り入れたらいいか」「こんなことを発信したらどうか」など、積極的に取り組んでいることです。グローバルな視点、エネルギーな熱意を感じ、わたし自身も刺激を受けて、精いっぱいやらなければ、という気持ちにさせてくれます。

育成のお手伝いできれば

——実際には、どのようなことに取り組みたいですか。

ゼッターランド 理事の皆さんの中には経済、法律、経営などさまざまなジャンルの専門家いますが、選手の立場に近いのはわたしかな、と思っています。具体的には技術面ではなく、育成の面でお役に立てるのではないかと考えています。例えば、選手たちもどこかでクラブ経営の一端を担っているという意識を持てば、プレーで見せるだけでなく、ファン・サポーターへの対応やメディアへの情報発信などでも有効な

プロモーションが可能ではないでしょうか。そういった部分での、選手育成という面で協力ができればいいですね。

——選手の社会的、人間的な成長ともかかわりますね。

ゼッターランド 選手のセカンドキャリアにつながるものを、ファーストキャリアのうちからということです。自分の体験も含め、プログラムづくりのお手伝いなどができないかと考えています。Jリーグが日本のスポーツ界をリードしていくという点では、モデルケースとして参考になっている競技団体も多いです。

——アメリカでアスリートとしての生活を送った経験からはいかがでしょう。

ゼッターランド アメリカでは子どものころから、ディスカッションやコミュニケーションが重視されています。トップアスリートを目指す上で、スキルだけでなく、こうした研さんは当たり前です。人間として尊敬され社会的なお手本となりうかが問われます。それは、選手生命を維持するのと同じぐらい大事だということを痛感しました。このようなテーマで、スポーツ界に携わることができればと思っていました。

——そうした選手の育成は、クラブの信頼も高めますね。

ゼッターランド 育成のための教育や指導者が、本当に大事だなと感じています。時間をかけて指導者養成にも取り組みたいし、優れた指導者になる人材もいると思います。スポーツマネジメントという言葉が広く定着してきましたが、根底にあるのは人間力です。一時、スポーツ科学が大いにもはやされた時期がありましたが、人間がそれを扱うのが原点です。その点を忘れずに、新しいことに取り組んでいきたいですね。

——新たに就任した大東和美 Jリーグチェアマンとは、お話をしましたか。

ゼッターランド 先日、お話しする機会があり、選手育成についての考え方で重なる部分がありました。また、チェアマン就任時、理事宛に文書をいただき、そこにも今後の選手育成に割かれている部分が多かったので共感するとともに、わたしに期待されている部分があるとすれば、この点かなと感じました。皆さんの御指導をいただきながら、力いっぱい取り組んでいきたいと思っています。



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。